

# 令和4年度 宝塚市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - 地域にある様々な見守り資源・ネットワークの強化と深化
  - コロナ禍でも実施可能な啓発活動の開発と実践

報告者氏名: 苅田 和也 ・ 前川 喜代美  
野木 淑加 ・ 辻 貴美  
秋元 瑞穂 ・ 中村 沙綺  
藤野 智誉子 ・ 外堀 佳代

# 宝塚市 認知症施策 全体図

## 高齢者にやさしい 地域づくりの推進

- \* エイジフレンドリーシティ行動計画に基づく取り組みの検討
- \* たからづか地域見守り隊活動（宝塚市社会福祉協議会）との協働
- \* 宝塚市認知症高齢者等みまもり登録の活用
- \* 宝塚警察署生活安全課との連携強化
- \* 高齢者の権利擁護に対する取り組みの推進

## 普及・啓発の推進

- \* 認知症サポーターの養成と活動の場づくり
- \* ステップアップサポーターの養成と活動の場づくり
- \* 小中学校、高校での認知症サポーター養成講座の実施

## 認知症の人とその家族 への支援

- \* 認知症カフェの活動支援
- \* 認知症の当事者・家族の思いや声を発信できる機会・場の充実
- \* 認知症の当事者・家族と介護関係者の情報交換の場づくり
- \* 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施
- \* 宝塚市認知症高齢者等見守り機器貸与事業の活用

## 認知症の人やその家族 の視点の重視

## 若年性認知症施策の強化

- \* 障碍福祉課、障碍福祉関連事業所等との連携強化
- \* ひょうご若年性認知症支援センターとの連携強化

## 適時・適切な医療・介護 等の提供

- \* いきいき百歳体操の普及推進
- \* ふれあいいきいきサロン活動への助成
- \* 認知症初期集中支援チームの活動促進
- \* 介護保険事業計画に基づく介護サービス基盤の整備
- \* 認知症ケアパスの積極的活用
- \* 阪神圏域認知症疾患医療センターとの連携の推進

# withコロナの中での“つながいづくり”と“つながりの強化”（宝塚市）

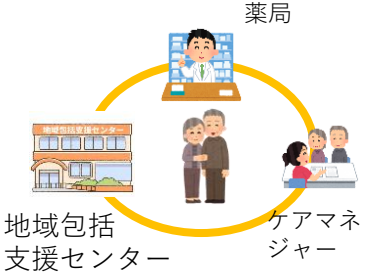
コロナ禍からwithコロナへと意識が変化する中で、昨年度に引き続き、弱まったつながりの強化、途切れたつながりの再構築、新しくできたつながりの維持など、“つながり”を共通テーマに活動を行いました。

## ①薬局・薬剤師との連携 ～スムーズな情報共有に向けて～

テーマ：在宅でのお薬に対する支援

～認知症の方の服薬にまつわるエピソードを通じて～

令和2年度からの継続で、地域ケア会議の開催を通じ、薬局・薬剤師との連携をスムーズに行う方法を検討し、実践につなぐ。



### 昨年までに把握した課題

- ・薬局の窓口で、気になる人がいてもどうして良いかわからない。
- ・薬剤師とケアマネ・包括は、居宅療養管理指導以外でのつながる手段が少ない。
- ・どのような情報を共有すればスムーズに連携できるのか。シンプルで確実な連携ツールがあれば良い。




### 令和4年度の取り組み

他の自治体で作られた連携ツールを参考にしながら、宝塚市版の連携ツールづくり、運用ルールづくりを進める。

## 令和4年度薬局・薬剤師連携地域ケア会議

### スムーズな連携のためには何が必要？何ができる？

薬剤師ができること	ケアマネジャーができること	地域包括ができること
<ul style="list-style-type: none"><li>・気になる人がいたら包括に連絡する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・サービス担当者会議時の出席依頼</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気づきシートを再検討して宝塚市版を完成させる</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・気づきシートの活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・お薬手帳に名刺を入れる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・顔の見える関係づくりの場の提供（継続）</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ケアマネ、包括への問い合わせを行う</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・お薬手帳にケアマネ、事業所名を記入する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・照会があった場合には、伝えられる範囲で情報提供を行う（積極的に）</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・お薬手帳カバーの配布</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気づきシートなど、つながるためのツールの活用</li></ul>	

認知症地域支援推進員は、気づきシートの積極的な利用を進める。  
包括内の他の職員や地域のケアマネに、積極的な情報共有を提案する。

今後は、各地域での医療介護連携推進の一環として、他の職種も含めたスムーズな連携が図れるよう、実践していくこととする。

## ②若年性認知症支援勉強会の実施

推進員会議にて：「ここ数年、若年性認知症の方と出会う機会が少しずつ増えているけど、支援の経験が少なく、支援者側も迷う場面が多いと感じている。」

課題：

- 若年性認知症の方の支援に接する機会が少ない。
- 支援の経験を引き継ぐことが難しい。



課題の解決に向けて：

- 若年性認知症の方々の思いを知りたい  
…当事者、家族にお話を聞く機会をつくる
- 課題を共有したい  
…障害相談支援機関、ケアマネジャーに声かけ
- 実際の支援について知りたい …勉強会の実施



### 宝塚市若年性認知症勉強会

- 【講師】 ひょうご若年性認知症支援センター 若年性認知症相談員 岩井 史子様  
川西市若年性認知症の会 りんどう (RING・DO) の会 川並 隆様
- 【日時】 第1回目：令和5年1月18日(水) 13:30~15:30  
第2回目：令和5年1月31日(火) 13:30~15:30 ※2回とも同内容で実施。
- 【内容】  
• 若年性認知症の方の支援の実際  
• 若年性認知症当事者のご家族から「支援者に伝えたいこと」
- 【対象】 地域包括支援センター職員、委託相談支援事業所職員、居宅介護支援専門員 等

参加者 計 103名

アンケートより

- 早期に相談してもらえるよう、社会の理解を深めることが大切
- 家族の葛藤も支えられる支援が必要
- 多機関で支援することの重要性を改めて感じた

等々



## ③ステップアップサポーター養成講座



コロナ禍で2年間休止していた講座を再開する。

- ・実習の受け入れ先を新たに見つける必要があるかも…
- ・コロナ禍の影響で、ステップアップサポーターが活躍できる場はどうなっている？

【プログラム】令和元年度と同内容で実施

	内容
第1回 「知る」	<ul style="list-style-type: none"><li>・講義とワーク 「認知症の人の心と関わり方」 「傾聴とは」</li><li>・認知症の人と家族のお話</li><li>・実習についてオリエンテーション</li></ul>
第2回 「体感する」	<ul style="list-style-type: none"><li>・体験実習</li><li>・実習振り返りシートの記入</li></ul>
第3回 「深める」	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループワーク「体験実習の振り返り」</li><li>・実践報告</li><li>・グループワーク「できることから始めよう」</li></ul>

【参加者】7名

【第2回 実習場所の種類】

- ・一般デイサービス
- ・認知症対応型デイサービス
- ・グループホーム

【第3回 実践報告の内容】

- ①地域活動について（生活支援コーディネーター）
- ②グループホームから
  - ・入居者も地域住民の一員
  - ・楽しく幸せに暮らすために
- ③オレンジカフェの紹介
- ④チャレンジファームの紹介（住民ボランティアと当事者で野菜づくりをする活動）
- ⑤いきいき百歳体操と包括の紹介

【第3回 グループワークで出された意見等】

体験実習の振り返り

- ・声かけ、会話が難しかった
- ・皆さんが安心して過ごされるように、スタッフの方々が心がけていたのがわかった
- ・利用者がどう過ごしたいのか、周りが合わせられるように配慮されていた

できることから始めよう

- ・これまで仕事ばかりで近所づきあいをしてこなかったため、まずは近所の人へのあいさつから始める
- ・話を聞くだけでなく、実際に出向いて見ていきたい
- ・サロンを再開し、無理のない形で継続したい
- ・自分に合う活動を探していきたい

## 実施後の振り返り

- コロナ禍でサポーター養成講座を開催できていないので、参加者が少なかった。
- 参加者が少ない分、希望者は2か所で実習できた。よい経験になっていた。
- 実習場所について、オレンジカフェやサロン等、身近な場所での実習を希望される方がいなかった。専門職の関わり方を見たいのかもしれない。
- 今回は当事者の話を直接聞く機会を設けられなかった。この機会があれば、理解がさらに深まるのではないか。実際の活動もイメージしやすいかも。



### 次年度以降は

- サポーター養成講座の開催を定例化する
- オレンジカフェやサロン等の身近な場所を、終了後の活動場所としてつないでいく方法を検討する
- 当事者の声を直接聞くことができるような内容にしていく。

## ④ステップアップサポーター交流会

### ステップアップサポーター養成講座と交流会はセットで実施する！

- 目的
- 活動したい思いのある方と活動の場がつながる機会を増やす
  - 情報交換の場があれば参加したい人が多数いる
  - 新たな出会いをつくっていきたい
  - 継続して集まることで、活動の意欲を持ち続けてもらいたい





## 「認知症の人の権利を守るしくみのお話」

令和5年3月8日（水）13時30分～15時30分

- 成年後見制度と市民後見人のご紹介
- 高齢者虐待の早期発見について

【参加者】14名  
（案内送付47名）



### 【参加者の声】

- ・認知症の人は虐待される危険性が高くなることがよくわかった。
- ・（実際に認知症の家族を介護して）家族が我慢し犠牲にならなければ、介護は成立しなかった。家族も守られるべきである。
- ・コロナ禍で人と会って話す機会が減り、ストレスの溜まっている人が多い。サロンを再開して感じている。サロン参加者数は、コロナ前には戻っていない。

### 実施後の振り返り

- ・家族も当事者であることをしっかり意識しておく必要があることを再認識した。
- ・地域のつどいの場が再開しても、人が集わなくなってしまう？  
→もっと実情を知り、ステップアップサポーターの活動とつなげられるとよい。

## 最後に

再開、復活などの言葉を多く使いながら、いろいろと取り組んだ1年でした。コロナ前の方が良かった点、新しいものの方がうまくいくこと等、その場に応じて工夫しながら進んでいくしかないと感じることも多くありました。それでも、推進員が集まって話していると、「味方がたくさんいる」ことを実感できます。今後もさらに味方を増やししながら、楽しく取り組み、地域に還元していくことを目指していきたいと思います。